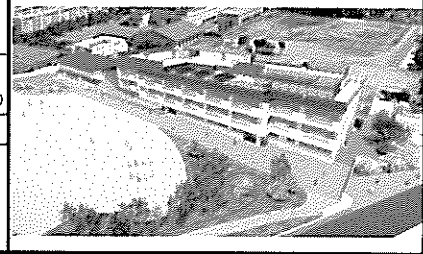


# CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDG6(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	長岡京市立長岡第四小学校 校舎	階数	地上4F
建設地	京都府長岡京市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域・準防	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,970 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2026年2月16日
敷地面積	18,712 m <sup>2</sup>	作成者	浦辺設計 富永
建築面積	2,669 m <sup>2</sup>	確認日	2026年2月17日
延床面積	6,938 m <sup>2</sup>	確認者	浦辺設計 津野田



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
1 参照値 100%  
2 建築物の取組み 90%  
3 上記+2以外の 89%  
4 上記+ 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 3.3  
Q3 室外環境(敷地内): 4.0  
LR1 エネルギー: 3.6  
LR2 資源・マテリアル: 3.5  
LR3 敷地外環境: 3.1

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	2.7
温熱環境	2.6
光・視環境	3.9
空気質環境	4.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	3.7
耐用性	2.7
対応性	3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.0

生物環境	4.0
まちなみ	4.0
地域性	4.0

LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	5.0
自然エネ	2.0
設備システム	3.0
効率的	2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源	3.4
非再生材料の	3.7
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.4
地域環境	3.1
周辺環境	2.9

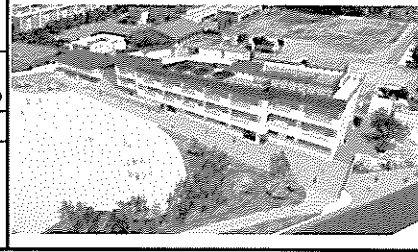
3 設計上の配慮事項		
<p>①情報発信基地のようなエントランス空間における学びの充実②健やかな身体をつくり、体力向上を図ることができる学校③豊かな心を育む学校④安心、安全な学校</p> <p>をコンセプトとし、様々な学習形態に対応する教室廻りやメディアセンターの充実、校舎と体育館の間に雨の日や災害時にも活動できる屋根付広場の設置、自然豊かな四季の森や菜園などの外構計画、防災拠点ともなる学校施設などの設計を行った。</p>	<p>②サービス性能</p> <p>将来の教室の転用や設備の更新などを考慮し、基準階(1~3階)については、階高は3.75m以上確保し、耐震壁をできるだけ少なくしたラーメン構造を採用することで壁長さ比率も0.2以下、積載荷重は2900N/m<sup>2</sup>を確保した。</p>	<p>③室外環境(敷地内)</p> <p>豊かな心を育む学校のコンセプトのもと、自然豊かな外構を計画すると共に、ヒューマンスケールを意図した壁面の分節と、敷地の積極的な緑化により景観に配慮した。屋根付広場の地域利用など地域性へ配慮を行った。</p>
<p>①室内環境</p> <p>中庭を設け、廊下や階段に光が差し込み、教室だけでなく、学校全体を明るくするように設計を行った。教室の照度は500lxに設定し、昼光と合わせて明るい教室環境をつくった。</p>	<p>②資源・マテリアル</p> <p>雨水を貯留し、散水に使用する計画とした。仕上材にはエコマーク商品やグリーン購入法適合マークの商品を採用する設計とした。</p>	<p>④敷地外環境</p> <p>グラウンドは塩化カルシウムを混ぜて舗装し、周囲に防砂ネットを設置して砂塵を抑制を行う。適切な量の自転車置き場と駐車スペースを把握し、交通量の多い道路を避けて出入口を設置した。</p>
<p>④エネルギー</p> <p>居室に面する外部部分を断熱し、教室の窓ガラスをLow-eペアガラスとし、外皮性能の向上を図るとともに、設備機器についても高効率化を行った。</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	長岡京市立長岡第四小学校 校舎	階数	地上4F
建設地	京都府長岡京市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域・準防風地域	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,970時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2026年2月16日
敷地面積	18,712㎡	作成者	浦辺設計 雷永
建築面積	2,669㎡	確認日	2026年2月17日
延床面積	6,930㎡	確認者	浦辺設計 津野田



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

1参照値 100%

2建築物の取組み 90%

3上記+2以外の 89%

4上記+ 89%

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・㎡)

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健) 2.4

4(教育) 2.5

5(ソシエター) 2.0

6(水・衛生) 2.0

7(エネルギー) 1.8

8(経済・雇用) 2.5

9(イノベーション) 1.7

11(都市) 2.4

12(生産・消費) 1.8

13(気候変動) 2.1

15(陸上資源) 2.5

17(実施手段) 2.0

\*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境 2.7

温熱環境 2.6

光・視環境 3.9

空気質環境 4.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

換気性 3.7

耐用性 2.7

対応性 3.5

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.0

生物環境 4.0

まちなみ 4.0

地域性 4.0

LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物外皮の 5.0

自然エネルギー 2.0

設備システ 3.9

効率的 2.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

水資源 3.9

非再生材料の使用削減 3.7

汚染物質回避 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化 3.4

地域環境 3.1

周辺環境 2.9

### 3 設計上の配慮事項

基本	その他
<p>①情報発信基地のようなエントランス空間における学びの充実②健やかな身体づくり、体力向上を図ることができる学校③豊かな心を育む学校④安心、安全な学校をコンセプトとし、様々な学習形態に対応する教室廻りやメディアセンターの充実、校舎と体育館の間に雨の日や災害時にも活動できる屋根付広場の設置、自然豊かな四季の森や菜園などの外構計画、防災拠点ともなる学校施設などの設計を行った。</p>	
<p>①中庭を設け、廊下や階段に光が差し込み、教室だけでなく、学校全体を明るくするように設計を行った。教室の照度は500lxに設定し、昼光と合わせて明るい教室環境をつくった。</p>	<p>②将来的に教室の転用や設備の更新などを考慮し、基準階(1~3階)については、階高は3.75m以上確保し、耐震壁をできるだけ少なくしたラーメン構造を採用することで壁長さ比率も0.2以下、積載荷重は2900N/㎡を確保した。</p>
<p>①LR1 エネルギー 居室に面する外壁部分を断熱し、教室の窓ガラスをLow-eペアガラスとし、外皮性能の向上を図るとともに、設備機器についても高効率化を行った。</p>	<p>②LR2 資源・マテリアル 雨水を貯留し、散水に使用する計画とした。仕上材にはエコマーク商品やグリーン購入法適合マークの商品を採用する設計とした。</p>
	<p>③LR3 敷地外環境 グラウンドは塩化カルシウムを混ぜて舗装し、周囲に防砂ネットを設置して砂塵を抑制を行う。適切な量の自転車置き場と駐車スペースを把握し、交通量の多い道路を避けて出入口を設置した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される